

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域から応援して頂ける施設づくり」という会社理念を基に施設理念を定め、事務所や休憩室に掲げ常に意識付けをしている。	事業所の運営理念を基に、年始に1F、2Fそれぞれの目標を立て、利用者に寄り添う介護の実践に努めている。年末に職員全員で達成状況を検討し、次年度の目標作成に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物等、外部の方と交流できる機会を設け、近隣の方や自治会等にも少しずつ認識が高まっている。	自治会に入会し、自治会長から地域の夏祭りに招待を受けたり、節分には事業所に保育園児を招待し利用者と共に楽しい時を過ごしたりと日常的に地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内行事や家族会、又、地域行事へ参加する機会を多くし、認知症の方との接し方など、会話の中からも学べるよう工夫をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、近況報告を行うと共に業務や運営に関する意見や要望等の意見交換を行っており、その内容は業務カンファレンスにて職員にて伝達を行い、適宜改善するようにしている。	2ヶ月に一度、地域包括センターの職員、ケアマネージャー、家族、職員等により開催され、議事録を行政に届けている。業務に関する意見や家族からの要望等をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的(毎月)入居状況などの報告に伺い、お互いに相談や助言を頂きながら質の向上に活かす等、常に連絡を取りながら施設運営を行うようにしている。	市役所の担当者とは常に連絡を取り合っている。日頃から近況報告や意見交換を行い、書類作成等協力を得て業務を行っている。役所へ出向くときには利用者を伴っていくこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	接遇マナー、身体拘束廃止委員会を設置し、事例等を用いながら気づきにくい拘束等の勉強会を行ったりして、知識と対応方法の習得に取り組んでいる。	玄関は夜間のみ施錠している。利用者がひとりで外出した時は、それとなく職員がついて行く。職員はスピーチロックにも配慮し、行動を制限したり、せかしたりしない介護を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇マナー向上委員会を通して、『利用者は人生の先輩』であり、尊敬の気持ちを持ち接しなければならぬ事、言葉一つからも虐待に繋がる事を伝え、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は必要とする入居者がいない為活用されていない。講習会などに参加し、学習の場を設けるよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書だけでは分かりにくい個所については別紙を用いて説明すると共に、不明な点については繰り返し説明し納得している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	よく面会に来られる御家族とは会話する機会があるので意見を頂ける機会があるが、他にも入居者様の表情や少しの仕草などから情報を得て、話し合いを行い改善に努めている。	家族同士がよく知り合い、横の連携を深めてもらうために家族会を開催し、事業所に来てもらう機会を作っている。入所時に記入してもらう「ご家族からの要望」を反映した支援に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で意見を出しやすい雰囲気を作り、良い提案、意見は反映させている。	職員は業務カンファレンスに向けて事前に意見書を提出することができる。会議等で職員の意見や提案が反映されやすい環境にある。また職員の個別の相談にも対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要な研修については、会社負担での講習や各種資格手当を設けると共に、休日日数(年間120日)や、シフトの融通性をもって、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外の研修でも、必要であれば場合によって会社負担で講習に参加出来たり、OJTとして先輩職員が直接指導を行い、なるべく個々の能力や希望に沿うように機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所が主催している市内グループホームの会合に1~2回/年参加し、事業者同士の連携を図り入居者様の受け入れ先の相談などが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者は実対調査で本人と良く話をして、今の考えや希望を聴き、不安等があれば説明を行って納得して頂いている。入居後は通常よりも見守り・会話を頻繁にしながら支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実対調査時に家族からの要望を伺い適宜アドバイスを行わせて頂いている。また入居後も、面会時に情報交換が出来るようになるべく話しかけるように心掛け、意見や要望が出やすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様と御家族が必要としていることを、話し合いの中から見つけ、施設で対応出来るかの判断をきちんと伝えて、対応できない物に関しては、社外のサービス提案させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様毎に出来ることを見付けて、掃除や料理の手伝い、レクリエーションを一緒に行う事を心掛け、家族の一員として生活を共にしていけるような配慮を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に利用者の様子を伝えられるようにし、御家族と共に考えて介護を行うという体制を作り、その都度、職員含め話し合い関係構築を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 ○馴染みの人や場との関係継続の支援	馴染みのお店などに買物に出掛けて支援している。御家族や友人の訪問は居室又はフロアにて面会に来られた方の話題や思い出話に耳を傾け快く過ごして頂けるよう支援している。	入所時に家族から記入してもらった「ご家族の援助計画」により、利用者の入所前の趣味、娯楽を把握している。馴染みの店への買物に行ったり友人や家族に来てもらったり利用者の気持ちを大切にされた支援に努めている	
21		○馴染みの人や場との関係継続の支援 ○馴染みの人や場との関係継続の支援	レクリエーションや日常会話の中に職員が入り、なるべく利用者様全体が楽しめるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○馴染みの人や場との関係継続の支援 ○馴染みの人や場との関係継続の支援	退居された利用者様や御家族にも今迄同様、行事のお誘いをしたり、退去後の様子を伺ったりしながら場合によっては相談に乗ったりアドバイスをしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来れば入居者御本人とお話しを行い希望等を直接伺っているが、出来ない場合には、仕草や表情などを観察し、その時に最適と思われる方法を実行している。	子供好きな利用者には散歩時に保育所等子供がいる場所を周ったり、テレビで気に入ったタレントが出演していたら話題にしたりと、決して決めつけずに選択する機会を作るように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にサマリー等の情報提供及び利用者との会話の中から、なるべく今迄の生活スタイルや生活環境を把握し、可能な範囲でさせている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の変化には常に気を配り、日々の申し送りやケアカンファ、スタッフ会議などで検討し、ケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー、計画作成担当が中心となり、御家族からの意向も聞き入れて、介護計画を作成している。	利用者個別のケアカンファレンスに於いて職員が意見を出し合い共有し、同じ方向に向かって介護計画を作成している。プラン見直しの際には医師や家族から新しい情報をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護を行う中での気付き等は生活記録や職員ノートを活用して、職全体に周知すると共に、ケアプラン作成時にはカンファした内容をプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時にもっとも必要なサービスが何かを的確に把握し、施設内で出来ることについては可能な限りのサービスを行うが、出来ない事については外部サービス等を紹介したり、最善の方法を提案している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幸いにも近隣に地域資源が集中している為、外出という意味も込めて施設やイベント等を利用して頂いて、特にイベントにはなるべく多くの方が参加できるよう配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診、週1回の歯科往診等の医療支援を行う中、近隣の病院との連携で医師と入居者様の良好な関係が築け安心して頂いている。	内科は月2回、歯科は週1回往診受診している。緊急の夜間受診も可能である。家族の希望によりかかりつけ医で受診する利用者もいる。外部受診の際は基本的に家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調変化・救急搬送については往診医及び提携医療機関の看護師の協力により相談や指示を受けられる体制ができるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	基本的には御家族中心に対応しているが、情報交換等必要に応じて医療機関や相談員とも連絡を取り合い、病院との連携は密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期医療を視野に入れ施設で出来る事、出来ない事を明確にした上で方針をまとめ、御家族への説明や入居者様の希望を伺い実施する。現状は個々の状態に添った方法を、御家族や医師と相談しながら決定している。	家族には利用者の現状とリスクを説明し理解を得るようにしている。医師、家族、事業所で話し合い。随時医療が必要で事業所での介護が困難な場合は医療機関への入院を提案しているが、最終的な判断は家族の意見を尊重している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、統一された方法で定期的に訓練を行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い(夜間設定含む)、実施時には消防署にも報告を行っている。また、消防署は近隣にあるので、連携を取りやすく何かあればお互い行き来出来ている。	夜間想定訓練も含め定期的に防災訓練を行っている。訓練前には家族へ連絡し、近隣の住人にもポスティング等で情報を知らせ協力を得られるように呼びかけている。備蓄は必要なものを備えている。	非常災害時において地域の協力を得るために努力している姿勢が見られるが、今後も地域への働きかけを継続して行っていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーについて常に学習し、一人一人を尊重する言葉掛けをし、信頼関係を保つ。	利用者の要望は居室もしくは事務室で聞くようにしている。入浴等の要望も個々に対応している。常に利用者を尊重する言葉かけに配慮し希望に沿いながら尊厳を重視した介護を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に相談する形で問いかけたり、お願いしながら真の希望を聞き出す。複数の提案をし、自己決定の幅を広げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められたスケジュールにとらわれず、その人の表情や会話の中から希望を汲み取る。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	静養道具を整え、能力に応じ介助している。衣服の組み合わせ等、自らの好みを尊重しながら能力に応じ助言介助を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力に応じ野菜の下ごしらえや味見をして頂く。自発的な片付けの申し入れを受けて一緒に行なう。	利用者の希望があれば野菜の皮むきや皿拭きを手伝ってもらっている。希望を聞いて一緒におやつを作ることもある。外食のランチを楽しんだり、家族会の際にバイキングで夕食を楽しんだりと一緒に食事する時間を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量はチェック表を作り一人一人の状態を把握。必要に応じ好みの飲み物やおやつなどで不足分を補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	原則、入居者様自身でケアを行って頂くが、その後職員が確認し、不足している部分についてはお手伝いさせて頂き、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄のリズムを把握している。自尊心・プライバシーに配慮しながら声かけ介助している。	排泄チェック表に基いて利用者の排泄パターンを把握して個別に支援をしている。日中はトイレ誘導を行っている。年齢と共に排泄のレベルが変化するが自立にむけた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬に依存することなく、水分摂取・乳製品の利用など工夫している。また、腹部マッサージなどコミュニケーションの中で行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴も楽しみの一つなので、ゆず湯や菖蒲湯を提案し、なるべく入浴して頂ける様に誘導し入浴したくないという事が無いように工夫している。	入浴は毎日行っている。気心の知れた職員が個別対応で声かけをして入浴に誘っている。利用者の希望の曜日、時間にゆず湯、アロマ白湯等で楽しんでもらっている。普段は無口でも心地よい入浴中は多弁になる利用者が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠時には話を聞いたり、一緒にお茶を飲む等、気分の安定を図り安眠へ繋げる。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の情報を職員間で共有し理解に努めている。服薬の確認をし粒状で服薬しづらい場合等は医師に報告、形状を変更して頂くなど確実な服薬を実行している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割等は決めずにその日の日々の中で利用者様の体調や気分に合わせて支援している。最近は御自分の役割と感じ声かけして頂けるようになった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は散歩や庭での外気浴を積極的に行なっている。本人との会話により希望を把握、御家族に連絡し美容院やショッピングなどの協力を得ている。	春、秋は近隣を散歩し、公園で歌を唄ったりして楽しんでいる。気候が厳しい夏場、冬場は外気に触れずに楽しめるショッピングセンター等へ出かける事もある。家族と外泊する利用者もいる。初詣の帰りには和食のランチを楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は御家族と相談の上保管しているが、外出時に使用する場合には予め御家族と相談し、御自身の判断で使用できるように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の協力を得て、電話が出来る様にしている。また、手紙も御本人希望時は出したり返事が来るように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた掲示物や壁面装飾などを共同で製作している。トイレ・脱衣所の温度設定に留意し気持ちよく排泄や更衣できる様にしている。	利用者は居室、リビング、畳コーナー等、好みのスペースで生活している。節句には雛人形や五月人形を飾り、季節感を感じながら生活してもらるように配慮している。玄関ホールでは憩いの場として1Fと2Fの利用者の交流が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア以外にも和室があったり、廊下に椅子が置いてあったりするので、個人やグループでの時間も大切に出来るよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今迄使い慣れたタンスや仏壇等、愛着がある物や精神的に落ち着く物を持ち込まれ、居心地の良い環境作りをしている。	居室はエアコン、クローゼット、洗面台が備え付けである。エアコンの風が直接利用者に当たらないように工夫されている。カーテンは防炎のものを持ち込んでもらっている。職員は利用者が安全に安心して暮らせるようにアドバイスしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札やトイレなどの場所は大きく見やすく表示している。		